

## ヒガンバナについて



ヒガンバナの名前は、秋の彼岸頃に花が咲くことに由来します。赤い花の色から、曼珠沙華（まんじゅしゃげ：梵語で“赤い花”の意）とも呼ばれています。本州、四国、九州に自生し、人里近くの田畑、道ばた、堤防などに生育する多年草です。有史前に中国から救荒作物として持ち込まれたとされています。中国には種子をつくる2倍体のヒガンバナもありますが、日本のヒガンバナは3倍体のために種子ができません、球根の分球によって増えます。

ヒガンバナは数多くの園芸品種が作出されていて、ヒガンバナによく似たものから別種に見えるものまで、さまざまな色や形をしたものが、公園や庭などに植えられています。一方、“白いヒガンバナ”として親しまれているシロバナマンジュシャゲは、自然交配によって生じた、ヒガンバナの近縁種です。

自然の種（しゅ）と園芸品種を区別するのはなかなか難しいため、今回は、ヒガンバナに見えるもの、つまり園芸品種を含むヒガンバナとシロバナマンジュシャゲを調査対象にします。別紙の「ヒガンバナの見分け方」を参考にして、できれば園芸品種かどうかを考えながら、種を判断してください。

### ひょっとして、2倍体のコヒガンバナ？

稀に、8月のお盆頃に咲いているヒガンバナが、話題になることがあります。園芸品種は全般に早く咲き始めますが、もしかすると、2倍体のヒガンバナ（コヒガンバナと呼ばれている）かも知れません。夏に赤色のヒガンバナを見かけたら、咲き始めの小花から雄しべの先を1、2本摘み取ってティッシュに包み、調査票と一緒に送っていただけませんか。2倍体は花粉の大きさが均一ですので、顕微鏡で観察して確かめたいと思います。

また、2倍体のヒガンバナであれば、9月中旬か下旬頃には種子を形成しているはずですが。興味のある方は調査地点を再訪し、その結果を知らせてもらえるとありがたいです。

### 普通、ヒガンバナは種子をつけないものだけど…

閉花後、花の栄養分は球根に吸収されます。そのため、花弁や雄しべ・雌しべは散り落ちずに、干乾びた状態で花茎に残っています。

枯れかけの花茎をよく見ると、種子をつくらないとされる3倍体の中でごく稀に、小花の子房が膨らんでいるものがあるようです。右の写真は、開花から2か月後の花茎です。1つの小花で結実し、球状の黒い種子（直径6mm）が割れ目から見えています。野生のヒガンバナに種子ができないとは言いきれないようです。



種子をつけた花茎  
2021年11月12日撮影

#### 参考文献

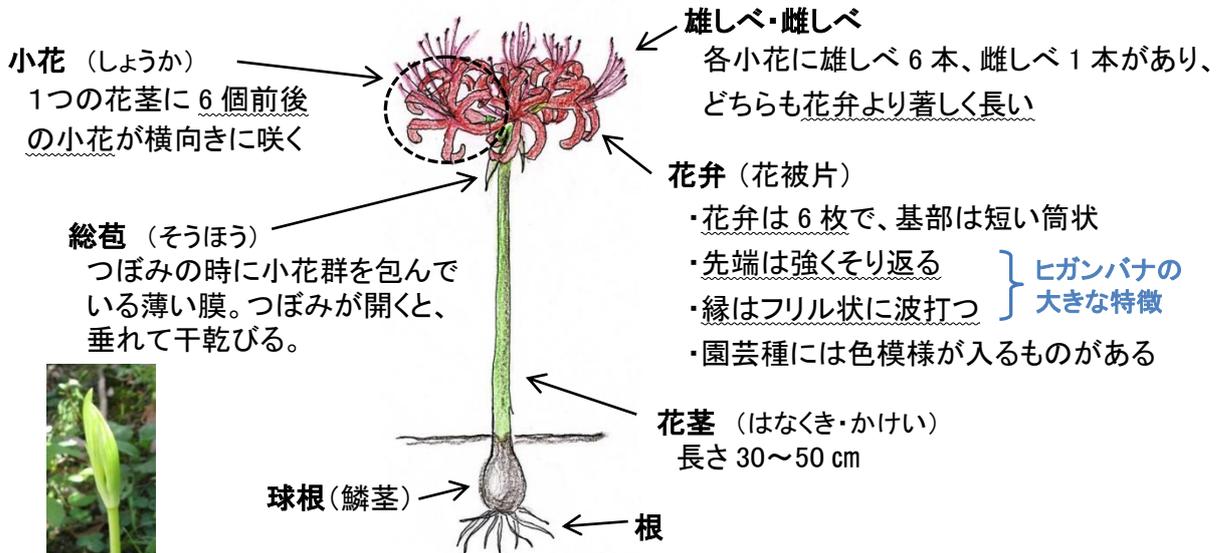
- 栗田子郎(1998) ヒガンバナの博物誌. 研成社.
- 布施静香(2015) 改定新版 日本の野生植物 I. 平凡社.
- 松江幸雄(1990) 日本のヒガンバナ. 文化出版.

# ヒガンバナの見分け方



## 《ヒガンバナの特徴》

- ① 球根から長く伸びた 1 本の花茎の先端で、数個の小花が放射状に広がって咲く



2枚の総苞に包まれているヒガンバナの“つぼみ”

**注意！ 球根には強い毒があります。**

**花や茎は触っても大丈夫と思いますが、汁がついた時には手を洗ってください。**

- ② 花と葉は季節が異なり、一緒に見られない

【花は9~10月に咲く】

9月になって秋を実感し始める頃、つぼみ (左上の写真) をつけた花茎が地面からニョキニョキと伸びてきます。花茎の先の総苞が開くと、赤色の小さな小花が閉じた状態で数個見えますが、どの小花も初めは上を向いています。それが、下に垂れながら放射状に広がって開花すると、みんなの知っている“ヒガンバナ”の出現です。

【葉は晩秋~春に茂る】

花や花茎が枯れた後の晩秋 (10月終わり頃) に、やや厚くて、光沢のある、細長い葉が現れます。冬から春にかけて光合成で球根に栄養を蓄え、4月頃に葉は枯れます。

【夏は地上に何も無い】

5~8月にかけて地上には何も見られませんが、球根は開花に向けて花芽を発達させています (ただし真夏は発育が抑制される)。



枯れた花茎と、伸長する葉  
2021年10月21日

《ヒガンバナの近縁種》 春に出葉する種があるが、花の全体的な姿はヒガンバナそっくり



シロバナマンジュシャゲ（白花曼珠沙華）

一見、白色のヒガンバナ。ヒガンバナとショウキズイセンの自然雑種。自生地は九州だが、よく植栽され、各地で見られる。ヒガンバナに比べて花弁の幅がやや太く、先端のそり返りはやや弱い。9～10月に開花し、葉は花後に出る。

ショウキズイセン（鍾馭水仙）



9～10月に開花。花弁の縁が波打ち、雄しべ・雌しべが長いので、ヒガンバナによく似る。相違点は、花も雄しべも黄色で、花弁の幅

キツネノカミソリ（狐剃刀）



京都府立植物園で撮影  
2021年8月16日

8月に開花するが、秋咲きもある。花は黄赤色でやや太く、縁は波打たない。小花数は3～5。結実すること、葉が

ナツズイセン（夏水仙）



8月に開花。花は薄桃色。

スプレングリー



中国に分布。8月に開花。花は桃色で、先端が青紫

インカルナータ



中国に分布。8月に開花。花弁の中央に濃桃色の縦筋があ

《いろいろな色や形をした園芸品種》

野性のヒガンバナよりも花弁が幅広かったり、先端のそり返りが弱かったり、咲き始めが早かったりするの、園芸品種の可能性ががあります。公園や庭にあるものは、注意して（疑いを持って）見てください。

さつま美人



花弁はうす赤色で、縁が白色。大型の品種。

ジャクソニア



華やかなピンク色で幅広の花弁、先端部が青色（白矢印）。先端の反り返りは弱

アルビピンク



花弁は、白色の地にピンクが入る。やや幅広で、縁が大きく波打つ。先端は強く反り返る。

真紅白糸



京都府立植物園で撮影  
雄しべが花弁に変化した、八重咲きの品種。

参考文献

- ・布施静香(2015) 改定新版 日本の野生植物 I. 平凡社.
- ・森源治郎・今西英雄・坂西義洋(1990) *Lycoris* 属の開花に及ぼす温度の影響. 園芸学会誌 59(2):377-382.
- ・栗田子郎(1998) ヒガンバナの博物誌. 研成社.